

平成二十八年入学選抜試験

個別学力試験問題(前期日程)

国 語

注意

- 一、問題紙は指示があるまで開いてはいけません。
- 二、問題紙は十四ページ、解答用紙は一枚です。指示があつてから確認し、解答用紙の所定の欄に受験番号を記入してください。
- 三、答えはすべて解答用紙の所定のところに記入してください。
- 四、解答用紙は持ち帰ってはいけません。
- 五、試験終了後、問題紙は持ち帰ってください。

一

次の文章は、村上陽一郎が、科学史の分野における二つの著作（バターフィールド『近代科学の誕生』（渡辺正雄訳）と伊東俊太郎『近代科学の源流』）から、あるディレクシナを読み取り、そのことについて記述している部分である。これを読んで、問いに答えよ。

（この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。）

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

村上陽一郎『科学史の逆進法—ルネサンスの再評価—』による。

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

(注) バターフィールド——イギリスの歴史学者(一九〇〇—一九七九)。

クリオの女神——ギリシア神話に登場する歴史を司る女神。つかもと

レンブラント——オランダの画家(一六〇六—一六六九)。

フマニスト——人文主義者。

レオナルド——レオナルド・ダ・ヴィンチ(一四五二—一五一九)のこと。

透視画法——遠近感を表現することができる画法。

問一 傍線部「く」を漢字に書き改めよ。

問二 傍線部A「今こたわってしまったのである」について、筆者がこたわっていることは何か、具体的に説明せよ。

問三 (ア) (イ) (ウ) に当てはまる、最も適切な接続語を次の語群から選択し、記入せよ。ただし、同じ接続語を二度用いてはならない。

さうだ	しかし	それゆえ	しかも
-----	-----	------	-----

問四 傍線部B「正しい理論」とはどのようなものか、筆者の考えに即して説明せよ。

問五 傍線部C「試みに他のジャンルの歴史を考えてみよう」について、美術史や音楽史の分野は、科学史の分野とどのような点が違うと考えられるか、両分野の違いを本文に即して説明せよ。

二

次の文章を読んで、問いに答えよ。

(この部分につきましては、著作権の関係により、公開しません。)

(この部分にま 著の権係り、し
分きては、作関よ公まん。)

(小林秀雄「高野山にて」による。)

(注) 明王院——和歌山県高野町にある、高野山真言宗の寺院。

赤不動——不動は不動明王。仏教の信仰対象の一つ。明王院の不動は、赤色で描かれているので、赤不動と呼ぶ。

園城寺——滋賀県大津市にある、天台寺門宗の総本山。

智証大師——円珍(八一四〜八九一)の諡号(死後の名)。平安時代の天台宗の僧。

青蓮院——京都市にある天台宗の寺院。

阿弥陀二十五菩薩来迎図——阿弥陀如来が、二十五の菩薩を引き連れて、臨終の人を極楽浄土に迎えるために、人間

世界に下る様子を描いたもの。

靈宝館——高野山内の貴重な文化遺産を保存展観する施設。

問 傍線部「審美的な判断は、知的な判断と戦い、これに破れてしまふのである」について、筆者の見解に対してあなたはどのように考えるか。絵画以外の分野で、具体例や根拠を示しながら自分の考えを述べよ。(解答は解答欄をほぼ満たす程度とすること。)

(14) 欄

--	--	--	--	--	--	--

三

次の文章を読んで、問いに答えよ。

また、この男、親、近江なる人に、いとしのびてすみけり。さるあひだに、この女の親、気色をや見けむ、くせち、まもり、叱ひて、日もすこし暮るれば、門鎖して、うかがひければ、女は思ひさはり、男あふよしもなくて、からうじて、築地を越えて、この男入りにけり。つねに、もの言ひつたへ **ア** 人に、たまさかにあひにけり。さて、それして、「築地を越えてなむ参り来つる」と言は **イ** けるを、親、気色見て、いみじく騒ぎののしりければ、「さうに対面すべくもあらず。はや、帰りぬ」とぞ、言ひいだしたりければ、「ゆへ先はともなくもあれ、つゆにてもあはれと思はるるものならば、今宵帰りぬ」と、せちに言ひいだしたりける、帰るとて、男、

みるめなみ立ちやかへらむ近江路は名のみ海なる浦とうらみて

とて、帰りぬ。また、女、返し、

関山のあらしの風さむければ君にあふみは浪のみぞ立つ

さりけれど、この男、いらへをだにせずなりにけり。なにの身の高きにもあらず、親、かく憎げに言ふ、めざまし。女も親につつみければ、さてやみぬ。

(『平中物語』による。)

(注) くせち——言い争い。口論。

まもり——娘が男に会わないよう監視すること。

築地——土を固めた垣根。土塀。

みるめ——海松布(海藻の一種)。女性に逢うという意味の「見る目」を掛ける。

関山——逢坂の関のある山。逢坂は、近江国と山城国の境界付近の地。

問一 空欄ア・イには使役の助動詞「す」または「さす」が入る。ふさわしい助動詞をそれぞれ選択し、適切な形に活用させて答えよ。

問二 傍線部A「名のみ」には、「近江の海は、実際は海松布も取れない淡水なので、海とは名ばかりである」という意味のほか、もう一つの意味がある。どのような意味であるか、説明せよ。

問三 傍線部B「関山のあらしの風のさむければ」とは、誰のどのような状況をたとえたものか、わかりやすく説明せよ。

問四 傍線部C「いらへをだにせずなりにけり」を口語訳せよ。

四

次の文章を読んで、問いに答えよ。(設問の都合で送り仮名・返り点を省いたところがある。)

魏、文侯問李克曰、「呉之所^a以^b亡^c者、何也。」李克对曰、「数戦数

勝^{テハナリト}」文侯曰、「数戦数勝^{ヒテ}、国之福也。其所^{ナルハ}以^{フル}亡^ル、何也。」李克曰、「

「数戦^{ヘバ}則^チ民疲、数勝^{テハ}則^チ主驕^{モコル}。以^テ驕^ル主^ヲ治^{ムルハ}、疲^ル民^ヲ、此^レ其所^ヲ以^{フル}亡^ル也。」

是^ノ故^ニ好^ミ戦^{ヒテ}窮^ク兵^ヲ、未^レ有^ル不^レ亡^ル者^ニ也。

(『新序』による。)

(注) 魏——中国古代の国名。

文侯——魏の君主。

李克——文侯の臣下。

呉——中国古代の国名。

問一 傍線部 a「所以・b」何也・c「对・d」也」の読みを、送り仮名を含めて、すべて平仮名で記せ。現代仮名遣いを用いてもよい。

問二 傍線部 A「数戦数勝」国之福也。其所^ナ以^ル亡^ハ何也」をわかりやすく口語訳せよ。

問三 傍線部 B「未^レ有^ニ不^レ亡^者也」をすべて平仮名で書き下し文にせよ。現代仮名遣いを用いてもよい。

問四 春秋時代に呉と激戦を繰り返し、呉を滅ぼした国はどこか。その国名を漢字一字で答えよ。